

□定積分の置換積分法

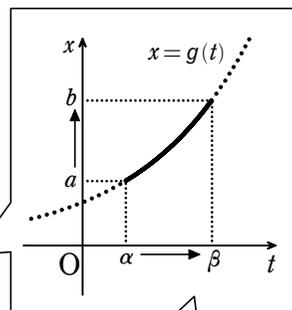
区間 $[a, b]$ で連続な関数 $f(x)$ の原始関数を $F(x)$ とする。
 x が微分可能な関数 $g(t)$ を用いて、 $x = g(t)$ と表されるとき

$$\frac{d}{dt}F(g(t)) = f(g(t))g'(t)$$

$a = g(\alpha)$, $b = g(\beta)$ とする。図のような x と t の関係を、
 右の表のように表す。このとき

$$\begin{aligned} \int_{\alpha}^{\beta} f(g(t))g'(t)dt &= [F(g(t))]_{\alpha}^{\beta} \\ &= F(g(\beta)) - F(g(\alpha)) \\ &= F(b) - F(a) \\ &= \int_a^b f(x)dx \end{aligned}$$

となる。よって、次の公式が成り立つ。



x	$a \rightarrow b$
t	$\alpha \rightarrow \beta$

厳密には次の条件が必要

- ① t の区間 $[\alpha, \beta]$ において、 $g'(t)$ が連続である。
- ② $[\alpha, \beta]$ における $g(t)$ の値域を D とするとき、
 $g(\alpha) = a$, $g(\beta) = b$ で、かつ、 $a, b \in D$ である。

定積分の置換積分法

$x = g(t)$ とおくと、 $a = g(\alpha)$, $b = g(\beta)$ ならば

$$\int_a^b f(x)dx = \int_{\alpha}^{\beta} f(g(t))g'(t)dt$$

x	$a \rightarrow b$
t	$\alpha \rightarrow \beta$

例8) 定積分 $\int_1^2 x(2-x)^4 dx$ を求める。

$2-x = t$ とおくと

$$x = 2 - t$$

$$\frac{dx}{dt} = -1 \quad \text{より} \quad dx = (-1)dt$$

$t = 2 - x$ に

$x = 1$ を代入すると $t = 1$

$x = 2$ を代入すると $t = 0$

また、 x と t の対応は右のようになる。

x	$1 \rightarrow 2$
t	$1 \rightarrow 0$

よって

$$\int_1^2 x(2-x)^4 dx = \int_1^0 (2-t) \cdot t^4 \cdot (-1)dt$$

$$= \int_1^0 (-2t^4 + t^5)dt$$

$$= \int_0^1 (2t^4 - t^5)dt$$

$$= \left[\frac{2}{5}t^5 - \frac{t^6}{6} \right]_0^1$$

$$= \frac{2}{5} - \frac{1}{6} = \frac{7}{30}$$

文字と同時に

範囲 (上端・下端) も変える!

上端・下端の交換

⇒被積分関数の符号を変える

定積分では文字をもとに戻す必要は無い

終

例題 8) a は正の定数とする。定積分 $\int_0^a \sqrt{a^2 - x^2} dx$ を求めよ。

$y = \sqrt{a^2 - x^2}$ は $x^2 + y^2 = a^2$ の $y \geq 0$ の部分であることから

解答 $x = a \sin \theta$ とおくと $\frac{dx}{d\theta} = a \cos \theta$

$\sqrt{a^2 - x^2}$ のときは $x = a \sin \theta$ とおくのは鉄則

$$dx = a \cos \theta d\theta$$

x と θ の対応は右のようにとれる。

x	$0 \rightarrow a$
θ	$0 \rightarrow \frac{\pi}{2}$

x	$0 \rightarrow a$
$\sin \theta$	$0 \rightarrow 1$
θ	$0 \rightarrow \frac{\pi}{2}$

この範囲において $\cos \theta \geq 0$ である。

また, $a > 0$ であるから

$$\begin{aligned} \sqrt{a^2 - x^2} &= \sqrt{a^2(1 - \sin^2 \theta)} \\ &= \sqrt{a^2 \cos^2 \theta} \\ &= |a \cos \theta| \\ &= a \cos \theta \end{aligned}$$

よって

$$\int_0^a \sqrt{a^2 - x^2} dx = \int_0^{\frac{\pi}{2}} (a \cos \theta) a \cos \theta d\theta$$

変数は θ なので a は外へ

$$= a^2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos^2 \theta d\theta$$

次数下げ

$$= a^2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{1 + \cos 2\theta}{2} d\theta$$

$$\begin{aligned} &= \frac{a^2}{2} \left[\theta + \frac{1}{2} \sin 2\theta \right]_0^{\frac{\pi}{2}} \\ &= \frac{1}{4} \pi a^2 \end{aligned}$$

別解 $x = a \cos \theta$ とおくと $dx = -a \sin \theta d\theta$

x と θ の対応は右の表の通り

この範囲において $\sin \theta \geq 0$ である

また $a > 0$ であるから

$$\begin{aligned} \sqrt{a^2 - x^2} &= \sqrt{a^2(1 - \cos^2 \theta)} \\ &= \sqrt{a^2 \sin^2 \theta} = a \sin \theta \end{aligned}$$

よって $\int_0^a \sqrt{a^2 - x^2} dx = \int_{\frac{\pi}{2}}^0 (a \sin \theta)(-a \sin \theta) d\theta$

$$= a^2 \int_{\frac{\pi}{2}}^0 (-\sin^2 \theta) d\theta$$

$$= a^2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^2 \theta d\theta$$

$$= a^2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{1 - \cos 2\theta}{2} d\theta$$

$$= \frac{a^2}{2} \left[\theta - \frac{1}{2} \sin 2\theta \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = \frac{1}{4} \pi a^2$$

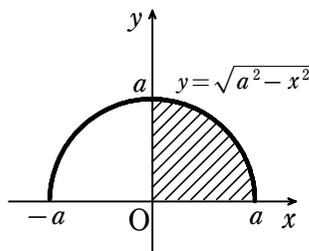
補足 例題の定積分において, 被積分関数

$$y = \sqrt{a^2 - x^2}$$

のグラフは, 右の図のような半円周を表し,

定積分 $\int_0^a \sqrt{a^2 - x^2} dx$ は, 半径 a の四分円の

面積を表す。



よって

$$S = \frac{1}{4} \times \pi \times a^2$$

円の面積の公式 (四分円)

$$= \frac{1}{4} \pi a^2$$

例題9) 定積分 $\int_0^1 \frac{dx}{x^2+1}$ を求めよ。

考え方 $x = \tan \theta$ において, $\tan^2 \theta + 1 = \frac{1}{\cos^2 \theta}$ を利用する。

$$\begin{aligned} dx &= (\tan^2 \theta + 1)d\theta \\ dx &= (x^2+1)d\theta \\ \frac{dx}{x^2+1} &= d\theta \text{ である} \end{aligned}$$

解答 $x = \tan \theta$ とおくと $\frac{dx}{d\theta} = \frac{1}{\cos^2 \theta} \therefore dx = \frac{1}{\cos^2 \theta} d\theta$

区間 $-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2}$ において,
 x と θ の対応は右のようにとれる。

x	$0 \rightarrow 1$
θ	$0 \rightarrow \frac{\pi}{4}$

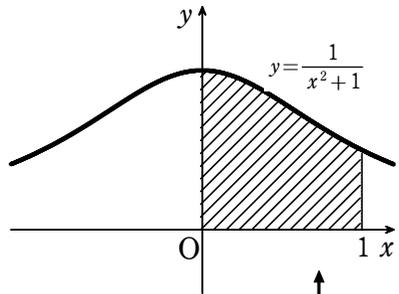
x	$0 \rightarrow 1$
$\tan \theta$	$0 \rightarrow 1$
θ	$0 \rightarrow \frac{\pi}{4}$

$$\begin{aligned} \text{よって } \int_0^1 \frac{dx}{x^2+1} &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{1}{\tan^2 \theta + 1} \cdot \frac{1}{\cos^2 \theta} d\theta \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \cos^2 \theta \cdot \frac{1}{\cos^2 \theta} d\theta \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} d\theta \\ &= \left[\theta \right]_0^{\frac{\pi}{4}} \\ &= \frac{\pi}{4} \end{aligned}$$

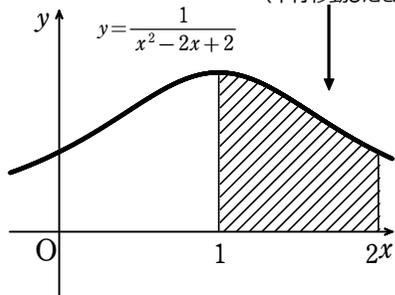
$$\begin{aligned} 1 + \tan^2 \theta &= \frac{1}{\cos^2 \theta} \text{ より} \\ \frac{1}{1 + \tan^2 \theta} &= \cos^2 \theta \end{aligned}$$

注意 被積分関数が $\frac{1}{x^2+a^2}$ ($a > 0$) のときは,

$x = a \tan \theta$ とおくとよい。



同じ領域
(平行移動しただけ)



補題 $\int_1^2 \frac{dx}{x^2-2x+2}$ を求めよ

$$\int_1^2 \frac{dx}{x^2-2x+2} = \int_1^2 \frac{dx}{(x-1)^2+1} \text{ であるから}$$

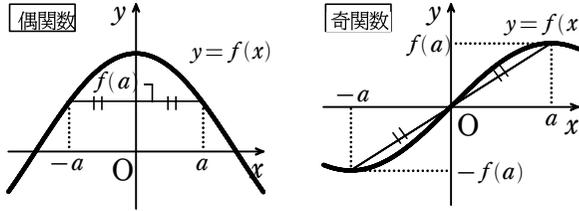
$$x-1 = \tan \theta \text{ とおくと } dx = \frac{1}{\cos^2 \theta} d\theta$$

$$\begin{aligned} \text{よって } \int_1^2 \frac{dx}{x^2-2x+2} &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{1}{\tan^2 \theta + 1} \cdot \frac{1}{\cos^2 \theta} d\theta \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \cos^2 \theta \cdot \frac{1}{\cos^2 \theta} d\theta \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} d\theta = \left[\theta \right]_0^{\frac{\pi}{4}} = \frac{\pi}{4} \end{aligned}$$

□ 偶関数, 奇関数と定積分

関数 $f(x)$ において, $f(-x) = f(x)$ が常に成り立つとき, この関数を **偶関数** といい,
 $f(-x) = -f(x)$ が常に成り立つとき, この関数を **奇関数** という*。

たとえば, $x^2, \cos x$ は偶関数であり, $x, \sin x$ は奇関数である。



* 偶関数のグラフは
 y軸に関して対称
 奇関数のグラフは
 原点に関して対称

関数 $f(x)$ が偶関数または奇関数のとき, 次のことが成り立つ。

偶関数, 奇関数と定積分

1 偶関数 $f(x)$ について $\int_{-a}^a f(x) dx = 2 \int_0^a f(x) dx$

2 奇関数 $f(x)$ について $\int_{-a}^a f(x) dx = 0$

半分だけ計算して2倍
 (下端が0になるので
 計算も楽)

上下で打ち消しあう

【証明】 関数 $f(x)$ の定積分について, 常に次の等式が成り立つ。

$$\int_{-a}^a f(x) dx = \int_{-a}^0 f(x) dx + \int_0^a f(x) dx \quad \dots\dots ①$$

$\int_{-a}^0 f(x) dx$ において $x = -t$ とおくと $dx = (-1)dt$

x	$-a \rightarrow 0$
t	$a \rightarrow 0$

x と t の対応は右ようになる。

$$\text{よって } \int_{-a}^0 f(x) dx = \int_a^0 f(-t) \cdot (-1) dt = \int_a^0 f(-t) dt = \int_0^a f(-x) dx$$

$$\text{したがって, ① から } \int_{-a}^a f(x) dx = \int_0^a \{f(-x) + f(x)\} dx$$

右辺において,

$$f(x) \text{ が偶関数ならば, } f(-x) = f(x) \text{ から } f(-x) + f(x) = f(x) + f(x) = 2f(x)$$

$$\text{また, 奇関数ならば, } f(-x) = -f(x) \text{ から } f(-x) + f(x) = -f(x) + f(x) = 0$$

したがって, 1, 2 が成り立つ。

○

特に

$$\int_{-a}^a x^{2n} dx = 2 \int_0^a x^{2n} dx$$

$$\int_{-a}^a x^{2n+1} dx = 0$$

例) $\int_{-1}^1 (x^3 - 6x^2 + 5x + 1) dx = 2 \int_0^1 (-6x^2 + 1) dx$

$$= 2 \left[-2x^3 + x \right]_0^1 = -2$$

$x^3, 5x$ は奇関数,
 $-6x^2, 1$ は偶関数

例9) (1) $f(x) = \cos x$ は偶関数であるから

$$\int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} \cos x dx = 2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos x dx = 2 \left[\sin x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = 2$$

(2) $f(x) = \sin x$ は奇関数であるから $\int_{-\pi}^{\pi} \sin x dx = 0$